

稲荷山遺跡出土の「七星剣」

下総歴史民俗資料館で特別展示

市内稲荷山遺跡から出土した七星剣が、3月6日から18日まで下総歴史民俗資料館で一般公開され、貴重な出土品を一目見ようと期間中大勢の人が訪れました。七星剣とは、刀身に北斗七星の象嵌があしらわれたもので、国宝の「聖徳太子御佩用の剣（四天王寺伝来）」が特に有名。国内では、数振りが確認されていますが、すべて伝世品で発掘調査により出土したものは今回が初めてです。11日には、職員による展示解説も行われ、会場を訪れた人たちは、七星剣にまつわる謎めいた話に聞き入り、悠久のロマンに想いを馳せていました。



じつと七星剣を覗き込む見学者



平安時代のもものと推定される稲荷山遺跡から出土した七星剣

住民票と印鑑登録証明書

自動交付機の導入で便利に

市役所1階市民課前ロビーと三里塚コミュニティセンターに、住民票の写しと印鑑登録証明書が取得できる自動交付機が設置され、3月1日から稼動しています。自動交付機を利用するには、暗証番号が登録された専用カードを事前に取得する必要がありますが、申請書の記入が不要になるなど、待ち時間も大幅に短縮できます。自動交付機利用者の一人目となった公津の杜の杜川さんは「簡単な操作で、すぐに取れました。待たなくて済むのがいいですね」と話していました。



タッチパネルで簡単に発行

公津の杜小学校校歌校章制定式

新学期に向けて校歌と校章が完成

昨年4月に開校した公津の杜小学校の校歌と校章が決まり、3月6日、全校児童が参加して制定式が行われました。式典では、「ひかりかがやく公津の杜よ」で始まる校歌の作詞を手掛けた(財)東京子ども図書館理事長松岡享子先生と作曲を手掛けた桐朋学園大学講師塩崎美幸先生、校章をデザインした公津の杜小の武田涼先生からそれぞれ作成に込めた思いが語られました。また、全校児童による合唱に続き、代表して6年の鈴木健太さんと5年の鈴木美樹さんが「校歌と校章に込められた思いを受け取り、いつまでも大切にしていきます」と決意を語りました。



校歌・校章に込めた思いを大切に

県内外から大勢の参拝客が

ほむすのかみ まつ
火結神を祀り、昔から「火伏せの神様」として知られる宝田の愛宕神社と医王寺で2月24日、盛大に祭礼が行われ、印旛郡内はもとより県内や茨城県などから約5、000人以上の参拝客が訪れました。中でも千葉市からは大型バスを連ねてやって来るほどで、それは戦時中の空襲の際、大火が愛宕様のお札が貼ってある家の手前で鎮火したという霊験談によるのだとか。当日の参道には露店が並び、普段静かな田園地帯がとてにぎわいました。



信者であふれる医王寺



人波が絶えない愛宕神社

消費者講演会“健康は笑いから”

笑いは健康のみなもと

落語家の三笑亭夢之助さんを講師に迎え、“健康は笑いから”をテーマに消費者講演会(主催は成田市・東京電力株式会社成田支社)が、3月10日に市役所で開催されました。講演の内容は、長寿世界一だった泉重千代さん^{はなし}取材した話や認知症に関するデータや予防について、噺家ならではの洒落やユーモアを効かせた話術で会場を爆笑の渦に包みました。



三笑亭夢之助さん



満員となった会場が笑いで包まれる



嵐の後に希望の光が差し込んで

第8回演劇フェスティバル

成田市民劇団 創作劇 「川のこちらの…」

3月3日と4日の両日、第8回演劇フェスティバル「NARITA ACT WAVE」が開催され、会場の国際文化会館には2日間で約800人の観客が詰め掛けました。今回の演目は、一般公募で集まった成田市民劇団による創作劇第2弾「川のこちらの…」。

昨年から約半数の団員が残ったことで、前回よりもさらに密度の濃い練習を重ねてきました。物語は、死後の世界の三途の川のほとりへ、まだ死んでいない女の子が来てしまったシーンから展開。いじめ問題なども絡めた暗くなりそうなテーマを明るく希望に満ちた結末へと、熱演で力強く引っ張っていった劇団員。終演後、観客を見送る彼らの目には、やり遂げた涙が光っていました。